



福ふくに徳とくあり ふうぐふうぐに毒どくあり

「世の中は澄むと濁るの違
いにて、福に徳あり、ふうぐに
毒あり」。

「ふく」と「ふうぐ」、「とく」と「どく」。なるほど妙に納得します。さらに「刷毛はけに毛があり、はげに毛がなし」などと続けば、濁点のあるなしで意味が変わる日本語の使い方には、楽しみだけでなく細心の注意が必要なようです。

日本語は難しいものです。「推認」という漢字がありますが、確かめなくても状況と経験から一般的に納得できる結論を導くという意味です。例として「体中に汗をかいているので、きっと暑いのだろう」と推認しますが、冷や汗や寝汗など汗にもいろいろあり、暑いと結論づけることはできません。また「やかんから湯気が出ていたら、やかんの中は熱湯だから気を付けて」と言えるかどうかです。

「臆測」という言葉もあり

ます。証明されていないことでも自由に物語を描く時に「臆測」でものを言う」のように使われています。「推認」で結論づけることも、「臆測」でものを言うことも、時として誤解を与えることもあるので物言いは慎重でありたいものです。

「ハミス ハナミス（葉見ず 花見ず）」という花は彼岸花のことです。彼岸花は、葉が出る前にするすると茎が伸びて花が咲き、葉は花が終わってから出ます。葉と花をいちどきに見られないがゆえの異名と、ある本の解説にありました。

「曼珠沙華まんじゅしゃげ」はよく知られています。舌曲がりと呼んでいる所もありますが、同じ花を呼ぶにも感心した名前ではありません。

「善は急げ」ということわざの意味は「よいと思ったこ

とは、急いで行動せよ」です。ただし「善」には、ひとつに「人や社会への善行」であり、もうひとつは「自分にとってよいもの、好都合なもの」と、解釈が2通りあります。

「今日も元気だ、たばこがうまい！」という宣伝文句がありました。ところが、濁点を取ると「今日も元気だ、たばこかう（買）うまい」と、宣伝と逆行するいわば禁煙のすすめに早変わりし、企業としては言葉遊びとして楽しむどころではありません。

「推認」そして「臆測」、「善」や「濁点」の持つ二面性など、秋の夜長に言葉の持つ意味を勉強しなければと思ふ昨今です。



指宿市長
豊留悦男